

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年8月14日
【四半期会計期間】	第41期第1四半期（自平成25年4月1日至平成25年6月30日）
【会社名】	株式会社クレオ
【英訳名】	CREO CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 林 森太郎
【本店の所在の場所】	東京都港区港南四丁目1番8号
【電話番号】	03(5769)3640(代表)
【事務連絡者氏名】	執行役員経営管理室長 土屋 淳一
【最寄りの連絡場所】	東京都港区港南四丁目1番8号
【電話番号】	03(5769)3640(代表)
【事務連絡者氏名】	執行役員経営管理室長 土屋 淳一
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第40期 第1四半期連結 累計期間	第41期 第1四半期連結 累計期間	第40期
会計期間	自平成24年4月1日 至平成24年6月30日	自平成25年4月1日 至平成25年6月30日	自平成24年4月1日 至平成25年3月31日
売上高(百万円)	2,109	2,164	11,044
経常利益又は経常損失() (百万円)	47	165	439
四半期純損失()又は当期純利 益(百万円)	69	182	356
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	67	181	358
純資産額(百万円)	4,217	4,386	4,612
総資産額(百万円)	5,991	6,199	6,533
1株当たり四半期純損失金額 ()又は1株当たり当期純利益 金額(円)	7.85	20.89	40.48
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	69.9	70.3	70.1

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載して
おりません。

2. 売上高には、消費税等(消費税及び地方消費税をいう。以下同じ)は含んでおりません。
3. 第40期第1四半期連結累計期間及び第41期第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
金額は、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 第40期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社および当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な
変更はありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前連結会計年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、海外景気の下振れリスクがあるものの、輸出が持ち直し、各種政策の効果が発現するなかで、景気回復が期待される状況でありました。

当業界におきましては、商談数の増加など、受注環境に上向き傾向が見えてきましたが、顧客の情報化投資、設備投資等に対しては慎重な動きが続き、厳しい状況下にあります。

このような状況の中、当社グループは平成23年4月1日付の当社持株会社化および会社分割により、事業ごとの責任と権限の明確化、スピード経営・自主独立経営の徹底、各業種・業態に最適な経営体制の確立、変化に対応出来る柔軟な経営体制の確立を実現し、より強固な経営基盤の確立並びに成長促進を目指しております。

なお、当第1四半期連結累計期間における、当社グループの状況は、売上は堅調に伸びたものの、利益に関しては各事業において先行投資をしたことが影響し、前年同四半期より損失が増大しております。

以上の結果、売上高は、21億64百万円（前年同四半期比2.6%増）、営業損失は、1億67百万円（前年同四半期は営業損失49百万円）、経常損失は、1億65百万円（前年同四半期は経常損失47百万円）、四半期純損失は、1億82百万円（前年同四半期は四半期純損失69百万円）となりました。

セグメントの状況は以下のとおりです。

- ・クレオマーケティング事業（主たる事業：基幹系・情報系業務ソリューションから、組み込み系ソフトウェアまで、
トータルICTソリューションの開発・提供）

売上は、前年同四半期より微減となりましたが、利益に関しては、「人事給与」「会計」を中心としたトータルICTソリューションZ e e M製品の20周年プロモーション費用や製品維持メンテナンス費用等の発生により、大幅に減少となりました。

その結果、売上高は4億21百万円（前年同四半期比5.1%減）、営業損失72百万円（前年同四半期は営業損失13百万円）となりました。

- ・クレオソリューション事業（主たる事業：システムやネットワークの構築から、各種業務アプリケーションの開発）

既存顧客との関係強化ならびにトラブルプロジェクト防止の徹底を継続した結果、売上、利益共に前年同四半期とほぼ同等に推移しました。

その結果、売上高は6億50百万円（前年同四半期比4.9%減）、営業損失1百万円（前年同四半期は営業利益0百万円）となりました。

- ・筆まめ事業（主たる事業：はがき・住所録ソフト「筆まめ」をはじめとしたソフトウェア製品の企画・開発・販売）

フォトムービー作成ソフト「デジカメde!!!ムービーシアター4」のWedding版や書籍セットなどの新製品を発売した結果、前年同四半期より売上は大幅に増加いたしました。利益に関しては、新製品の販売促進費用などが増加した結果、前年同四半期を下回りました。

その結果、売上高は1億10百万円（前年同四半期比31.8%増）、営業損失79百万円（前年同四半期は営業損失61百万円）となりました。

- ・クレオネットワークス事業（主たる事業：ICT基盤サービスプラットフォームとメディアプラットフォームの提供）

主力製品であるクラウド型・ビジネスプロセス管理プラットフォーム「SmartStage BizPlatform」を中心に堅調に進んだ結果、前年同四半期に比べ売上は大幅増、利益も損失額が縮小しました。

その結果、売上高は1億47百万円（前年同四半期比48.1%増）、営業損失12百万円（前年同四半期は営業損失22百万円）となりました。

- ・クリエイトラボ事業（主たる事業：ヘルプデスクなどを中心としたサポート&サービス）

厳しい市況環境に適應するべく、新規プロジェクトへの先行投資など商談数増加に努めました結果、前年同四半期に比べ売上は微増、利益に関しては先行投資の発生やプロジェクト利益率の低下などにより減少となりました。

その結果、売上高は8億34百万円（前年同四半期比4.6%増）、営業利益19百万円（前年同四半期比69.7%減）となりました。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(3) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	16,000,000
計	16,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (平成25年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成25年8月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	9,237,319	9,237,319	東京証券取引所 (JASDAQ スタンダード市場)	単元株式数 1,000株
計	9,237,319	9,237,319	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額 (百万円)	資本準備金残 高(百万円)
平成25年4月1日～ 平成25年6月30日	-	9,237,319	-	3,149	-	-

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成25年3月31日）に基づく株主名簿により記載をしております。

【発行済株式】

平成25年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 508,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 8,648,000	8,648	-
単元未満株式	普通株式 81,319	-	-
発行済株式総数	9,237,319	-	-
総株主の議決権	-	8,648	-

【自己株式等】

平成25年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
株式会社クレオ	港区港南4丁目1-8	508,000	-	508,000	5.50
計	-	508,000	-	508,000	5.50

2 【役員】の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間において、役員の変動はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、監査法人ナカチによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,923	3,096
受取手形及び売掛金	1,993	1,229
商品及び製品	19	18
仕掛品	234	453
その他	318	268
流動資産合計	5,489	5,067
固定資産		
有形固定資産	171	186
無形固定資産		
のれん	5	4
その他	646	728
無形固定資産合計	652	733
投資その他の資産	220	212
固定資産合計	1,044	1,131
資産合計	6,533	6,199
負債の部		
流動負債		
買掛金	448	353
未払法人税等	28	10
賞与引当金	341	201
返品調整引当金	60	63
資産除去債務	4	-
その他	937	1,085
流動負債合計	1,822	1,714
固定負債		
未払役員退職慰労金	29	28
資産除去債務	49	53
その他	20	16
固定負債合計	99	97
負債合計	1,921	1,812

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,149	3,149
資本剰余金	743	743
利益剰余金	843	617
自己株式	154	154
株主資本合計	4,581	4,355
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	0	0
その他の包括利益累計額合計	0	0
少数株主持分	30	31
純資産合計	4,612	4,386
負債純資産合計	6,533	6,199

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
売上高	2,109	2,164
売上原価	1,649	1,770
売上総利益	459	394
販売費及び一般管理費	508	561
営業損失()	49	167
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	0	0
受取保険金	1	1
その他	1	0
営業外収益合計	3	1
営業外費用		
支払利息	0	0
その他	0	0
営業外費用合計	1	0
経常損失()	47	165
特別損失		
投資有価証券評価損	-	1
その他	-	0
特別損失合計	-	1
税金等調整前四半期純損失()	47	167
法人税、住民税及び事業税	8	5
法人税等調整額	12	9
法人税等合計	20	14
少数株主損益調整前四半期純損失()	67	181
少数株主利益	1	0
四半期純損失()	69	182

【四半期連結包括利益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失()	67	181
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	0	0
その他の包括利益合計	0	0
四半期包括利益	67	181
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	69	182
少数株主に係る四半期包括利益	1	0

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1. 当社においては運転資金の効率的な調達を行なう為取引銀行2行と当座貸越契約を締結しております。これらの契約に基づく借入金未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
当座貸越極度額の総額	500百万円	500百万円
借入金実行残高	-	-
差引	500	500

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月20日 定時株主総会	普通株式	44	5	平成24年3月31日	平成24年6月21日	利益剰余金

当第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月19日 定時株主総会	普通株式	43	5	平成25年3月31日	平成25年6月20日	利益剰余金

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
減価償却費	44百万円	89百万円
のれんの償却額	0	1

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	クレオ マーケティング 事業	クレオ ソリューション 事業	筆まめ 事業	クレオ ネットワークス 事業	クリエイトラボ 事業	合計
売上高						
外部顧客への売上高	443	684	83	99	797	2,109
セグメント間の内部売上高 又は振替高	33	2	0	41	131	209
計	477	686	83	141	929	2,318
セグメント利益又は損失()	13	0	61	22	63	34

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	34
セグメント間取引消去	66
全社費用及び利益(注)	51
四半期連結損益計算書の営業損失()	49

(注)全社費用及び利益は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費や経営指導料等であります。

当第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	クレオ マーケティング 事業	クレオ ソリューション 事業	筆まめ 事業	クレオ ネットワークス 事業	クリエイトラボ 事業	合計
売上高						
外部顧客への売上高	421	650	110	147	834	2,164
セグメント間の内部売上高 又は振替高	47	5	-	26	118	196
計	468	655	110	174	952	2,361
セグメント利益又は損失()	72	1	79	12	19	146

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	146
セグメント間取引消去	100
全社費用及び利益(注)	79
四半期連結損益計算書の営業損失()	167

(注)全社費用及び利益は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費や経営指導料等であります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
1株当たり四半期純損失金額	7円85銭	20円89銭
(算定上の基礎)		
四半期純損失金額(百万円)	69	182
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純損失金額(百万円)	69	182
普通株式の期中平均株式数(千株)	8,859	8,729

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年 8月14日

株式会社クレオ
取締役会 御中

監査法人ナカチ

代表社員 公認会計士 平田 卓 印
業務執行社員

代表社員 公認会計士 吉永 康樹 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社クレオの平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社クレオ及び連結子会社の平成25年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております

2 四半期連結財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれていません。